首都高の持続可能な道路サービスに関する検討会（第２回）
議事要旨

1. 日 時：２０２５年１１月１４日（金） １３：００～１４：００

2. 出席者：
＜委員＞
太田和博座長、楠田悦子委員、河野康子委員、清水哲夫委員、竹岡圭委員、谷口綾子委員、中村文彦委員、芳野珠美委員

3. 議事：
１）持続可能な道路サービス提供に向けた現在の状況
２）今年の検討会の進め方

（主な意見）
・ 維持管理の財源は平時と非常時で分けているのか。また、大規模修繕等は別立ての財源なのか。
⇒大雪など災害時の費用は、過去の実績を参考に予算を組んでいる。
⇒大規模修繕等は償還期間を延ばして財源確保している。
・ コスト縮減額の算定方法は
⇒当初想定していた内容と技術開発などにより変更した内容の差分により算出している
・ これから考えているコスト縮減は何か。
⇒設備のコンパクト化や集約化、社会情勢の変化を踏まえた不要施設の断捨離などを想定している。
・ コスト縮減によるしわ寄せやモチベーション低下などはあるか。
⇒人的資本は大事。業務効率化は進めているが、無理なことはしていない。
・ サービス水準への影響についてはどうか
⇒コスト縮減によってサービス水準を下げることはいまのところ考えていない。
・ 安全に関わるもの、そうでないものなど、優先順位を考えていく必要がある。取捨選択が必要ではないか。
・ これからのコスト縮減は乾いた雑巾を絞るようなもの。まだ絞れるのか。人件費はこれからも下がらないだろう。今後、かけなくてもよい人件費はあるか。通行機能に関するサービスレベルを落とすのはよくないが、コールセンターなどに余地はあるか。
⇒劇的なコスト縮減メニューは中々ないが、例えば、コールセンターのお客さまからよくある質問はＡＩ化などの取組みを検討している。引き続きＤＸなどを活用して効率化を目指していく。

・ 例えば、ゲリラ豪雨対策として排水桝清掃を行うメリットは利用者にとってわかりやすいが、例えば、ETC 専用化工事のメリットはわかりづらいため、うまく利用者の実感や納得感が得られるような情報発信が必要ではないか。

以上